



日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.17 中国語担当 淺田さん

私は中国の北方（吉林省）出身です。「北方の人たちは寒さに強いんですよね？」と言われるのですが、実は意外と寒さに弱く、南方の冬の寒さでさえ耐えられないのです。南方の冬は大阪の冬に似ていて、外の気温は北方ほど寒くないですが、湿度が高く、厚着をしても湿った冷たい空気が身に沁みます。一方、北方の冬は空気が非常に乾燥しているので、風よけや保温をしっかりとっておけば十分対処できます。また、24時間セントラルヒーティングが当たり前で、室内の温度は常に20度以上に保たれています。家の窓やドアも断熱設計されており、冷気が室内に入り込むのを効果的に防ぐ造りになっているので、北方の冬は非常に快適に過ごせます。



ところで、中国では、中医学の影響を受け「寒」と「熱」の概念に重点を置く人が少なくないです。例えば「胃が冷えている」、「子宮が冷えている」といった感覚があります。食べ物にも「寒性」と「熱性」があって、カニや緑豆、柚子などは「寒性」、唐辛子や羊肉、火鍋などは「熱性」です。北方の人々は特に体内の寒気に注意を払い、冬には体を温めるために羊肉などの「熱性」の食べ物をよく食べます。また、「部屋に入ったらず外の服を脱ぎ、寒気を入れない」や「冬は特に頭や足の保温に気をつける（これらの部位を温めると全身が温かく感じられる）」といった先人の知恵が広く伝えられています。

北方の人々は寒さに強いというイメージがありますが、実際はそうではなく、寒い冬を暖かく過ごす術を知っているだけなのです。



アドバイザー紹介 ～スペイン語～



私はペルー出身で、大学で助産学を学び、卒業後はミッドウイフとして1995年まで勤務していました。その後、留学生として来日し、医学部保健学専攻で博士課程を修了しました。

現在は朝日大学保健医療学部看護学科に所属しています。2001年より大阪大学の中村安秀先生のご紹介で、関西のNPOで在留外国人の支援活動に参加しはじめ、その活動の一つが医療通訳でした。

当初、これまでの医療従事者の経験を活かして医療現場での倫理的配慮などに対応はできましたが、通訳技術は不十分でした。当時は研修の機会が少なく、米国の大学によるオンライン医療通訳講座を受講しました。言語は専門ではないため、語彙や制度を常に収集し勉強しています。最近はスペイン語医療通訳講師も担当しオンラインでの医療通訳など、高度な技術が求められる中で、Medi-Wayスペイン語通訳者の皆さんと一緒に研修ができて感謝しています。

エレラ・カディジョ・ルルデス・ロサリオ

今月のトピックス

「Medi-Way新アプリをまもなくご提供」

当社のオンライン医療通訳が患者様、医療者の方々にとってより使いやすくなるように、新しい通話システム（アプリ）の開発に取り組んでまいりました。まもなくこれまでお使いのアプリから、新アプリへの切り替えのご案内をする予定です。

当社はICTを中心としたシステム会社ですが、実はMedi-Wayの医療通訳者の中には「外国語はともかく、機械はさっぱり…」という人が少なくありません。私たちMedi-Wayは「医療通訳の品質」を最も大切にしているので、自己研鑽を怠ることなく新しいアプリと共に進化を続けてまいります！！



新アプリ画面（開発中）

